

あそかビハーラ病院便り

む ゆ う じ ゆ

第 4 号

あそか樹

2015.1.1 発行 あそかビハーラ病院
〒610-0116 京都府城陽市奈島下ノ畔3-3
TEL 0774-54-0120 FAX 0774-54-0121
E-mail:kanwa@asokavihara.jp

ある患者さんとの出会い
私は1989年の英国ホスピス研修から帰国後、日本にあるホスピスに非常勤医師として関わりました。そこでの患者さんとの出会いが、私の緩和ケアにおける大切な道標になっています。花見を心持ちにしていた50代の女性の肝臓がん患者さんもおられました。まだ、お元気で歩くことも可能でした。しかし、直前の3月末に容体が急変。お腹の中でがんが破裂し大出血。ショック状態になりました。それまでお元気だったので、出血を止める手術を行いました。一命は取りとめました。意識が戻ると、どうして花見に行きたいと繰り返しました。外科医は大反対でしたが、本人の望みを叶えようと救急車で桜の咲く公園に向かいました。急変も覚悟しましたが、その日、満開の桜の下で見せた穏やかな笑顔。本人の強い希望があれ

緩和ケアで大切にしたいこと

昭和大学医学部医学教育推進室
あそかビハーラ病院顧問医師
高宮有介



死から生をみつめて
私が緩和ケア医を目指した20数年前は、同僚から、「医師が治療できない患者さんに向き合うのは敗北の医学だ」と批判され、親戚からは「頭がおかしくなったのではないか」と心配されました。現在、緩和ケアは、医療の中でも認知されるようになり、緩和ケア医になるといっても、周囲からは「少し変わっているなあ」という程度の反応です。2007年のがん対策基本法にも、第16条に早期から緩和ケアをすすべしと明記されています。緩和ケアが急速な勢いでひろまりつつあります。一方で、広まりながら、大切な部分が薄まってはいけないと思っております。身体的、社会的、スピリチュアル

ば、思いは叶うということを教えられました。また、希望があれば、最後の潜在的なエネルギーを燃焼されるのも目の当たりにしました。そして、そこに寄り添う私達も力を頂く事を知った出来事でした。

僧侶への期待

そのような緩和ケアの本質を忘れずに受け継いでいるのが、あそかビハーラ病院であると確信しております。昭和大学時代からの弟子である大島健三郎院長を始め、新堀看護部長や吉田看護部長がその流れを大切に繋いでくれます。また、ビハーラ活動の実践の拠点としての位置づけもあります。江戸時代には、僧侶が人生の様々な相談に乗り、病になっても介護をし、医師が見放しても、看取りから葬式まで関わっていた当時の手記が残っています。ビハーラは、生老病死に関わる本来の仏教の働きに回帰する活動だと思っております。あそかビハーラ病院が、僧侶達の患者さん・ご家族と関わる実践の場となり、心のケアができるビハーラ僧を多く輩出する基点となることを願っています。



病室 28床

家族室 和室2部屋
ご家族様がお泊まりいただけます

談話室 (ファミリーキッチン)
調理器具が揃っており、自由にご利用いただけます。
ご家族様の付き添い食も提供いたします (要予約)

浴室 (特殊浴室・機械浴室・一般浴室)
付き添いの方もご入浴できます

スタッフ
緩和ケア医 常勤3名 非常勤3名 看護師 約20名
薬剤師1名 管理栄養士1名
看護助手3名 ビハーラ僧3名
ソーシャルワーカー 1名 事務5名

交通アクセス



お車の場合

- ①京都から：国道1号線より国道24号線 (京都駅から約1時間)
 - ②大阪から：国道307号線を通って 山城大橋を越え、国道24号線を北へ
 - ③奈良から：国道24号線を北へ
- ### 電車の場合
- ①JR 山城青谷駅下車、徒歩15分
 - ②近鉄 新田辺駅より、タクシーで15分
 - ③JR 京田辺駅より、タクシーで15分
 - ④JR 城陽駅より、タクシーで15分

編集後記

あそかビハーラクリニックは、昨年4月1日、あそかビハーラ病院へと病院化したしました。これもひとえに皆さまはじめご理解・ご協力の賜物と、あつくお礼申し上げます。病院化に伴い、19床から28床に増床。またこれまでの大嶋健三郎院長、小城原傑医師に加え、岡本宗一郎医師を迎え、常勤医3名体制としました。看護師も増員し、これまで以上に、充実した看護体制を整えることが出来ました。今年の目標は、誠実さを要とし、病院スタッフと共に、本邦唯一の仏教に根差した独立型緩和ケア病棟をめざし、歩んでまいります。今後とも、皆さまのご支援・ご協力、よろしくお願い申し上げます。

ボランティアさんの募集
あそかの一員として活動していただけるボランティアさんを募集しています。活動の内容は、ティーサービス・ガーデニング・生花の手入れ・朗読・アロマセラピーなどがあります。病院ボランティアさんは、ボランティア研修を受講していただく必要があります。ホームページをご覧ください。山本まで直接お電話ください。

相談&各種申し込みは
あそかビハーラ病院電話窓口へ
0774-54-0120

見学をご希望の方
ホームページから見学申込書をダウンロードし、ご記入の上、ファックスか、メールでお申し込みください。見学希望日は第3希望まで必ずご記入いただき、ご不明な点はお気軽にお電話ください。

「ぬくもり」と「おかげさま」

～看～

ぬくもりとおかげさま
基本理念の体現者に



看護部長
新堀 いづみ

2008年の春に診療所として開院した当院は、2014年の桜が満開の4月1日、診療所から「あそかビハーラ病院」へ新しいスタートラインに立つことができました。ビハーラの理念の基、既成の仏教教団である浄土真宗本願寺派（西本願寺）が想いを込めて開院したあそかビハーラ病院。

まだまだ独立型緩和ケア病棟の認可をいただくという大きな目標はありますが、ひとつ階段を上がることができているみなさまにご報告させていただきます。と思っています。

私はホスピス・緩和ケアに携わる看護師として、ホスピスの原点である「宗教者が老病死に関わる」という強い姿勢に惹かれ続けています。どの病院にも「基本理念」は大きく掲げられています。でも働いている看護師がその理念を患者さんにケアとして届けているかといえは必ずしもそうとはいえません。病院基本理念の「ぬくもりとおかげさま」を「体現していく」ことは私たち看護部の理念です。

あそかに来られた患者さん、ご家族へ「ぬくもりとおかげさま」を看護を通して伝えたいと思っています。

宗教者と医療者が同じ願いをもってともに働くことの意味は「ぬくもり」と「おかげさま」を届けることができます。と思っています。

基本理念

「ぬくもり」と「おかげさま」

あそかビハーラ病院は
願われないのちに
ともに生きるひとときに
ほとけの慈悲に照らされている

「ぬくもり」と「おかげさま」のところで
やすらぎの医療を実践します

「あそかビハーラ病院」として、よろしくお願い申し上げます。

ひとつのお寺が何百年も続いているように「あそかビハーラ病院」が病に苦しむ人々を支え続けることができるように今日、私ができることをご縁に感謝をしながら積み重ねていきたいと思っています。

ビハーラ活動の展開とあそかビハーラ病院の沿革

- 1981年（昭和61年）
本願寺派において
ビハーラ活動が展開される
- 1982年（昭和62年）
ビハーラ活動者養成研修会の開始
教区ビハーラが結成される
- 1993年（平成5年）
第一回ビハーラ活動全国集会を実施
- 2008年（平成20年）
ビハーラ本願寺（特別養護老人施設）あそか第2診療所（有床診療所）
両施設がビハーラ総合施設として
京都府城陽市に開所される
- 2014年（平成26年）
あそか第2診療所から
あそかビハーラ病院へ病院化



ぬくもりとおかげさま
自分自身の死を通して



看護師長
吉田 厚子

私は看護師になって30年、仏教を学んで10年になる。あそかビハーラ病院で働かせていただいて、毎日たくさんの方に会い「ぬくもりと、おかげさま」をいただき心より感謝している。

私には忘れることのできない20年前のR君との出会いがある。17歳の

若さで骨肉腫となり亡くなっていくR君の壮絶な苦しみに向き合えなかった私は自分を恥じ、すがる思いで仏教を学んだ。そして生涯大切にしたい教えである「諸行無常」と出会った。「この世に生を受けたものは必ず死ぬ」ということである。

あそかビハーラ病院では毎日、人間にとって避けることのできない「生老病死」と関わらせていただき、私自身も命がけで働いている。

私にとって「ぬくもり」は、「阿弥陀さまの慈悲のぬくもり」誰にも分け隔てすることのない、大きく、温かく、すべて包み込む母親のぬくもりである。「おかげさま」は、自分も近い将来必ず訪れる死、そして滅びゆくこの身体。患者さんご家族の命のぬくもりと、素晴らしい人生の生きざまを傍で見せていただいて、私自身も大きな支え

コラム

緩和ケアについて「ただ死を待つためのもの」ではない

つたためのものではない、という言葉を耳にすることがありますが、それはまったくの誤解です。緩和ケアは「ただ死を待つための場所」ではありません。最後までその人らしく生き抜いていただくための場所です。治療の見込みが無いかからもうおしまい、と見放すのではなく、そこから更に輝く「いのち」のお手伝いをさせていただいています。

たとえば、絵を描くことを大切にされていた患者さんから「ぜひ人生最後の個展をひらきたい」という思いをスタッフに打ち明けていただいた

その人らしさを支える

た事がありました。そこで今まで書いてこられた絵を院内の様々な場所に飾らせて頂き、その方の人生最後の個展をひらきました。

緩和ケアは、お身体の痛みや不快な症状を取りのぞくことはもちろんですが、それは手段であって決して目的ではありません。緩和ケアの最大の目的は、その人らしさを取り戻すお手伝い。痛みを取りのぞくことによって、その人らしく生きることが、緩和ケアの目的です。

↑あそかで開いた個展の様子

↑アロママッサージを施行する看護助手